



リレー「となりの社教主事 58」



「なんとかなるよ」上司から学んだ社会教育

下野市教育委員会事務局生涯学習文化課 主査 山中 裕貴

私は令和5年度に社会教育主事講習を受講しました。講習では、仲間同士で同じ方向を向き、同じ悩みや不安をもち、話し合い、解決していくことの繰り返しでした。その時間はとても有意義な時間だったと感じます。

私が所属する生涯学習文化課では、「市立学校音楽祭」や「市民芸術文化祭」など地域の方の協力を得て地域の方と一緒にやる、または地域の方の協力があることで成り立つような事業があります。PTA や文化団体などの皆様に協力いただき、充実したイベントを開催できています。

社会教育とは地域の方が育つ場所であるとともに、行政職員も共に育つ場であると思います。市民の方々と何か一緒に作業し、一緒の目線で物事を考えていく中で成長を感じる、社会教育は誰しものが学び合える場でもあります。

今後は、地域づくりに携わっていくにあたり、これまで以上に「学び」、そして「出会い」を大切にしたいと思います。そんなことをいつも「なんとかなるよ」って言いながら教えてくれる上司が下野市にはいます。



写真：地域のお祭りで篠笛を演奏する上司



生涯学習研究会第1回研修会報告〔11月15日（金）下野市国分寺公民館にて〕

栃木県が全国に先駆けて地域連携教員を公立校全校に設置して今年4月で10年の節目となりました。本研修会は、『Re: BORN（リボン・再生）学校と地域の連携協働 ～これまでの10年。そして、これからの10年。～』をテーマに、これから10年先の未来を描いたふれあい学習を創造することを目的として実施しました。

研修1では、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ氏より、「Re: BORN 学校と地域の連携・協働～日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上のために～」を演題として御講話いただきました。地域の多様な大人とのつながりや、子どもたちが安心・安全で肯定的に受け入れられる「居場所」をつくることの重要性とともに、家庭教育の充実や学校運営協議会の工夫・改善についても関連付けてお話しいただき、地域学校協働活動の意義を再確認することができました。

研修2では、10年先の地域連携活動の姿を描きながら、「ひらめきカード」を使った拡散思考を促すアイデア出しの手法を体験することを通して、普段とは少し違った角度から現在の地域連携活動を Re: BORN（リボン）するワークショップを行いました。

参加者からは「立場の異なる方々からの意見を聞くことができ、新しい発見ができて大変有意義だった」、「自分一人では思いつかなかった考えが出され、実践していきたいと思った」等の感想が寄せられ、充実した研修を実施することができました。



ご案内 生涯学習研究会 第2回研修会

日時	令和7年2月4日（火） 13:30～16:30
会場	小山市立生涯学習センター （えるるOYAMA）
対象	障害者、社会教育主事有資格者 地域連携教員他
申込み	所属長あての別送付開催案内 により、お申し込みください。



問合せ

- ＊ 発行
- ＊ 事務局

下都賀地区生涯学習研究会

下都賀教育事務所ふれあい学習課内

ホームページでもご覧になれます。ふれあい学習課 情報誌・機関紙 で検索してください。

TEL 0282-23-3422

E-mail shimotsuga-hureai@pref.tochigi.lg.jp



二次元バーコード